

水野地区・中水野

中水野は、江戸時代では殿様街道が定光寺へと山に向かう場所になり、尾張藩とのつながりが強い地区になります。東光寺は藩主墓参の際の休憩処となっており、かつては客殿があったとされます。



水野代官所跡

水野代官は天明元年（1781）に設置され、初代代官には御林方奉行の水野正恭が就きました。代官所は中水野村の御鳥林の麓に置かれますが、当初は役人の官舎がある程度でした。代官職が水野氏の手を離れると、本格的な陣屋整備が文化 10 年（1813）に行われます。水野代官所の支配村は愛知郡、春日井郡、美濃国可児郡の 111 か村で、石高 6 万 1310 余石でした。陣屋には代官の他、手代、同心（足軽）、小使が置かれ、支配下の村への触れの伝達、年貢免定の発給、庄屋の任命、百姓からの願い・訴えの受理など民政全般を行っていました。現在は水野小学校校門前に碑が建てられています。



三社大明神社

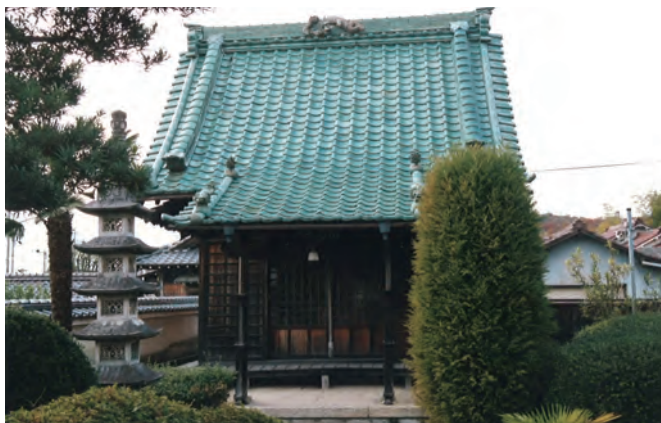
三社大明神社は中水野の村社ですが、初めは水野三村の氏神であった尾張戸神社の里宮として創建されたと伝えられており、創建時期は織豊期まで遡ることができます。社叢の中に、市指定天然記念物のマルバタラヨウがあります。

マルバタラヨウ（市指定天然記念物）



マルバタラヨウは、モチノキ科のモチノキとタラヨウの交雑種で、昭和 54 年（1979）に日比野修氏によって発見され、平成 8 年（1996）に学会誌に新種として報告されました。国内では最初の発見で、新種の植物の発生過程を考えるうえでも、全国的に貴重な発見です。

東光寺



薬王山東光寺は臨済宗妙心寺派の寺院で、定光寺の末寺です。永正元年（1504）雪心和尚による開基と伝えられています。本尊は観世音菩薩、また秘仏として行基作と伝えられる木造薬師如来があります。大般若会が感応寺と 1 年ごとに交替して 1 月 15 日に、地藏祭りが 8 月第 4 日曜、お薬師が 11 月 8 日、12 日に行われます。殿様街道沿いの寺院であることから、尾張旭市印場の良福寺とともに藩主の休憩場所とされていました。また現在の薬師堂には、かつて水野で盛んに焼かれていた緑釉瓦が用いられています。



殿様街道

尾張藩主の行列が通ったことから名づけられた街道です。尾張藩初代藩主徳川義直の墓所がある定光寺への墓参りの道として、また、水野で行われた狩りのために通う道でもありました。義直は、藩主として領国内の民情を把握するために鹿狩や鷹狩を盛んに行いました。特に水野には元和8年（1622）以降20回以上訪れており、その際に訪れた定光寺の景色に感銘を受け、自らの墓所に定めたとされています。名古屋城から定光寺までは、約6里（24Km）の行程で、瀬戸市内では「中水野」交差点から水野大橋を渡って東光寺、そこから丘陵地帯に入って石坂峠までの区間が残っています。特に三沢町1丁目の住宅地北側から名城大学演習林までの間における急坂部分には、丸石による石畳が敷かれるなど、当時の様子をうかがうことができます。



陶器



石器



創造



街



交流



自然



祭り

地下軍需工場跡（市民公園内）



愛知航空機㈱は昭和 18 年（1943）に設立され、名古屋市港区の永徳工場で「彗星」「流星」等の戦闘飛行機を生産しました。昭和 20 年（1945）には空襲の激化にともない、大垣・福井・瀬戸・津などに疎開工場が作られ、瀬戸には水野丘陵地に地下工場、菱野地区に覆土工場がありました。地下工場では一～五区からなる総延長 3,900 m のトンネルが掘られ「彗星」の翼部分を製造しましたが、まもなく終戦をむかえ、現在は坑道入口や貯水槽等のみが地上から見るができます。

瀬戸電車両 デキ 200 形電気機関車（市民公園内）



旧瀬戸電気鉄道は、第一次世界大戦の好景気による瀬戸窯業の発展などによる輸送需要に対応するため、全線を複線化するとともに車両を増備します。同社は、瀬戸線の貨物輸送用にこの形状の車両を 2 両新造しました。この車両は、国産初期の電気機関車で機器の一部はアメリカのウエスチングハウス社製のものを使用しています。重さは 30.48 t で、昭和 53 年（1978）に貨物営業廃止にともない廃車となりましたが、瀬戸市民公園に静態保存されています。



- ① 水野代官所跡 (P86)
- ② 三社大明神社 (P87)、マルバタラヨウ (P88)
- ③ 東光寺 (P88)
- ④ 殿様街道 (P89)
- ⑤ 地下軍需工場跡 (P90)
- ⑥ 瀬戸電車両デキ 200 形電気機関車 (P90)